



**Osaka
University
Forum
on
China**

20世紀中国政治史文献案内

NIHU東洋文庫拠点・政治史資料研究班 編

OUFC
BOOKLET
vol.11
2017/3

OUFC BOOKLET
Vol.11

20世紀中国政治史文献案内

NIHU 東洋文庫拠点・政治史資料研究班 編

目次

はじめに	1
研究案内	3
文献紹介	7
20 世紀中国政治	9
前期中華民国	16
後期中華民国	20
人民共和国	25
工具書	34
ウェブサイト	37
日本	39
中国(1)	44
中国(2)地方志	49
台湾	52
香港	57
その他	60

はじめに

本書は、20 世紀中国政治史を学ぶための基本的事項、すなわち、(1)研究の進めかた、(2)文献の紹介、(3)関連ウェブサイトのリンク集から構成される。

(1)研究の進めかたでは、20 世紀中国政治史に関する教科書・入門書と雑誌、文献探索のための基本的なツールを概括する。

(2)文献の紹介では、「20 世紀中国政治」「前期中華民国」「後期中華民国」「人民共和国」の各時期について、「資料集」「著作集など」「定期刊行物」の項目に分け基本資料を紹介する。それぞれの項目では、最初に日本語資料をおき、そのあとに中国語等の資料を配置している。また「工具書」として事典・辞典類を配した。

(3)ウェブサイトについては、「日本」「中国(1)」「中国(2)地方志」「台湾」「香港」「その他」のそれぞれについて、五十音・ピンイン・アルファベット順に整理した。

* * *

現代中国地域研究プログラム（第 1 期 2007～2012 年、第 2 期 2012～2017 年）は、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が公益財団法人・東洋文庫など 6 研究拠点（2012 年から 9 拠点）とともに研究ネットワークの構築を推進した。

政治史資料研究班は、東洋文庫拠点・第 2 期プログラム（代表：土田哲夫）に置かれた研究班のひとつで、田中仁（大阪大学）、土田哲夫（中央大学）、松重充浩（日本大学）、金子肇（広島大学）、水羽信男（同）、吉田豊子（京都産業大学）で編成され、この間、セミナーやワークショップの開催、ブッ

クレットや書籍の刊行などの活動を行ってきた。本書は、10年間にわたる現代中国地域研究プログラムが終了するにあたって、政治史資料研究班として、ささやかなまとめを行いたいと考えたことによる。

本書の最初の2つの部分（研究の進めかたと文献紹介）は、田中が以前出版し現在品切れとなっている『原典で読む20世紀政治史』（白帝社、2003年）の「研究案内」「資料解題」を底本とし、研究班のメンバーである土田・金子・水羽の各氏が加筆した（「研究紹介」の項目の最後に〔土田〕などと付記する）。

「ウェブサイトのリンク集」は、東洋文庫拠点のホームページ「財団法人東洋文庫・現代中国研究資料室」に開設当初から置かれていた「デジタルリソースリンク集」を改訂したものである。第1期プロジェクトにおいてこの作業の中心的役割を果たした大澤肇氏（中部大学）を中心に、情報の確認と改訂を行った。本書のウェブ版では、直接リンクを貼ることによりシームレスに該当ページを訪問することができるであろう。

（田中仁）

研究案内

■ 課題の発見 ■

20 世紀中国政治史に関連する教科書・研究案内として、以下の書籍が公刊されてきた。

『現代中国の起源を探る史料ハンドブック』中村元哉・大澤肇・久保亨編，東方書店，2016。

『現代中国政治研究ハンドブック』高橋伸夫編，慶應義塾大学出版会 2015。

『新史料からみる中国現代史：口述・電子化・地方文献』高田幸男・大澤肇編著，東方書店 2010。

『中国歴史研究入門』礪波護・岸本美緒・杉山正明編，名古屋大学出版会，2006。

『中国研究ハンドブック』（原典中国現代史・別巻），岡部達味・安藤正士編，岩波書店，1996。

『日本の中華民国史研究』野澤豊編，汲古書院，1995。

『中国史研究入門・増補改訂版』（下），山根幸夫編，山川出版社，1995。

『近代中国研究案内』小島晋治・並木頼寿編，岩波書店，1993。

『近代日中関係史研究入門』，山根幸夫・藤井昇三・中村義・太田勝洪編，研文出版，1992。

『中国近代史研究入門：現状と課題』，辛亥革命研究会編，汲古書院，1992。

『現代中国研究案内』（岩波講座現代中国・別巻 2），野村浩一・山内一

男・宇野重昭・小島晋治・竹内実・岡部達味編，岩波書店，1990。

中国近現代史をテーマとする卒業論文を執筆するための手引書として『中国近現代史研究のスタンダード：卒業論文を書く』（田中比呂志・飯島渉編，研文出版，2005）が，さらに修士論文・博士論文を具体化する指針として『21世紀の中国近現代史研究を求めて』（飯島渉・田中比呂志編，研文出版，2006）出版された。

また，(1)『アジア研究』（アジア政経学会，季刊），『アジア経済』（アジア経済研究所，月刊），『国際政治』（日本国際政治学会），『国際問題』（日本国際問題研究所）などのアジア学・国際政治学関係学術誌；(2)『歴史学研究』（歴史学研究会，月刊），『歴史評論』（歴史科学協議会，月刊），『史学雑誌』（史学会，月刊），『東洋史研究』（東洋史研究会，季刊），『社会経済史学』（社会経済史学会，双月刊）などの歴史学関係学術誌；(3)『現代中国』（日本現代中国学会，年刊），『中国研究月報』（中国研究所，月刊），『中国：社会と文化』（中国社会文化学会，年刊），『中国21』（愛知大学現代中国学会），『現代中国研究』（中国現代史研究会，半年刊）などの中国学関係学術誌を図書館などで通覧する（「目次」に目を通す）ことによって，最新の研究状況がどのようなものであるのかをイメージできるであろう。その際，これらに掲載された「書評」にも注目したい。評者による研究動向の概括とそれをふまえた評書に対する批判的コメントは，課題の発見のヒントとなりうるからである。

『史学雑誌』の5月号は「201*年の歴史学界：回顧と展望」と題する特集号で，前年に発表された歴史学関係の専著・論文をサーベイしつつ各分野における研究上の潮流・論点を提示する。

概説書・研究書の多くは，参考文献あるいは参照文献を巻末に一覧として掲げていることが多い。これらは課題を発見するための手引きとして活用できる。

■ 文献の探索 ■

CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) は国立情報学研究所 (NII) による学術情報で検索できるデータベース・サービスである。それぞれの大学図書館の OPAC との併用がのぞましい。また、大学図書館のホームページの多くに「リンク集」が設けられているが、これらは文献検索のための有益なツールである。

国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>) は、国立国会図書館をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できる。

『東洋学文献類目』(1963-, 京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター) は東洋学に関する論文と単行本を年次ごとにまとめ、内容によって分類した網羅的索引である。1981 年度版以降はデータベース化され、Web 検索が可能になった (<http://ruimoku.zinbun.kyoto-u.ac.jp/ruimoku/>)。

アジア歴史資料データベース (<http://www.jacar.go.jp>) は、国立公文書館・外務省外交史料館・防衛庁防衛研究所所蔵の資料群をデジタル化し公開している。

『中国関係論説資料』(論説資料保存会, 1965-) は、研究所・大学などが発行した定期刊行物に収録された中国関係論文のリプリント版である(第1分冊: 哲学・宗教, 第2分冊: 文学・語学, 第3分冊: 歴史・政治・経済Ⅰ, 第4分冊: 歴史・政治・経済Ⅱ)。研究課題がある程度具体化した段階で、関連分冊の「目次」部分を通覧することは極めて有益である。また『複印報刊資料』(中国人民大学書報資料センター) は、『中国関係論説資料』の中国版というべきもので、中国各大学の紀要類で発表された文科系の関係論文をテーマごとに冊子体にしたものである。

文献紹介

20 世紀中国政治

■ 資料集 ■

【新編 原典中国近代思想史】

7 巻，野村浩一，近藤邦康，並木頼寿，坂元ひろ子，砂山幸雄，村田雄二郎編，岩波書店，2010-2011 年。旧編の『原典中国近代思想史』を大幅に改訂・増補。旧編では原典 200 篇ほどを収録したのに対し，新編ではそのうち 100 篇ほどの原典を修正・改訳・補訂しつつ再掲し，さらに原典を増補し総計 300 篇ほどを収録する。また，アヘン戦争から中華人民共和国成立までを資料選定の期間とする旧編に対し，新編では 18 世紀末の乾隆末期を起点とし，中華人民共和国が社会主義路線を明確にする 1953 年までを扱う。第 1 巻（開国と社会変容），第 2 巻（万国公法の時代），第 3 巻（民族と国家），第 4 巻（世界大戦と国民形成），第 5 巻（国家建設と民族自救），第 6 巻（救国と民主），第 7 巻（世界冷戦のなかの選択）から構成されている。

【原典中国近代思想史】

6 冊，西順蔵編，岩波書店，1976-1977 年。アヘン戦争から中華人民共和国にいたる時期の中国近代思想の諸潮流を「原典」によって再構成したもの。各巻の内容はつぎのとおり。第 1 冊（アヘン戦争から太平天国まで），第 2 冊（洋務運動と変法運動），第 3 冊（辛亥革命），第 4 冊（五四運動から国民革命まで），第 5 冊（毛沢東思想の形成と発展），第 6 冊（国共分裂から解放戦争まで）。

【ドキュメンタリー中国近代史】

横山英編訳，亜紀書房，1973 年，357 頁。1840 年から 1927 年までの中国近代史に関する基本資料 68 点の邦訳。

【日中国交文献集】

竹内実＋21世紀中国総研編，町田：蒼蒼社，2005年。1871年の日清修好条規から対華21か条要求，日中戦争，日華平和条約，日中国交正常化を経て2004年の小泉総理・胡錦濤主席会談に至る，日中間の戦争や外交交渉に関わる主要な文献を収録し，注釈と解説を付す。竹内実編『日中国交基本文献集』（蒼蒼社，1993年，上下2巻）の増補改訂版。構成は以下の通り。1 日清修好条規と台湾出兵 2 日清戦争 3 義和団事変 4 日露戦争 5 対華二十一カ条要求 6 ワシントン会議—山東返還 7 満洲事変と満洲国建国 8 日中戦争 9 大東亜戦争 10 敗戦 11 日華平和条約 12 日中国交正常化 13 日中平和友好条約 14 日中関係四原則 15 天皇訪中 16 歴史認識。[土田]

【世界史史料】

岩波書店，歴史学研究会編。12冊。歴史学研究会が編集し，2006年から刊行をはじめ7年をかけて完成させた。重要な世界史に関する史料をバランス良く収録し，訳注や解題も有益である。中国近現代史に関する史料そのものは少ないが，当該の文献が，いかなる国際的な環境のなかで書かれたのかを具体的に理解することは，ときに極めて重要な意味をもつ。なお特に関連するのは第8巻から第11巻で，タイトルは以下のとおり。『帝国主義と各地の抵抗Ⅰ』，『帝国主義と各地の抵抗Ⅱ』，『20世紀の世界Ⅰ：ふたつの世界大戦』『20世紀の世界Ⅱ：第2次世界大戦後 冷戦と開発』[水羽]

* * *

【民国叢書】

上海書店が1989年から出版をはじめ，1912～1949年に公刊された書籍を第1編から第5編までにまとめた。1,000種類以上の著作が収められており，

次の 11 に大分類されている。①哲学・宗教，②社会科学総論，③政治・法律・軍事，④経済，⑤文化・教育・体育，⑥言語・文字，⑦文学，⑧美術・芸術，⑨歴史・地理，⑩科学技術史，⑪総合。収録されているすべてのタイトルは、<http://www.aisixiang.com/data/47537.html> などでも確認できる。直接、政治史に関連しないものも多いが、影印本であるためテキストクリティークには便利である。なお 2012 年からは『民国叢書続編』第 1 編として、年鑑專輯（全 100 冊）が公刊された。〔水羽〕

【文史資料について】

中国人民政治協商会議全国委員会文史資料研究委員会編『文史資料選輯』，中華書局，第 1 輯（1960.1）～153 輯（2009.3）。1959 年以降，政治協商会議文史資料研究委員会で収集した非中共系人士の回想，各種文献，関係資料を編纂し，刊行したもの。全国政協刊行のもの他，各省市県等の政協文史資料委員会においても各種の文史資料が編纂・刊行されている。創刊から 1980 年代後半までは「内部発行」で利用は困難だったが，その後多くが公開化され，また『文史資料選輯』第 1-100 輯合訂版（中国文史出版社，1986 年 12 月）など，既刊・未刊の文史資料をまとめた大部のセットも公開で刊行されるようになり，今日では利用は容易である。このようなセット類として，以下のものがある。

全国政協文史資料委員会編『文史資料存稿選編』中国文史出版社，2002 年 26 冊。全国政治協商会議文史資料委員会所蔵の文稿約 4000 篇を分類，収録。内容は，1,2 晚清・北洋（上下），3 東征北伐，4 十年内戦，5 西安事変，6,7 抗日戦争（上下），8 日偽政権，9-11 全面内戦（上中下），12 政府，政党，13,14 特工組織（上下），15,16 軍事機構（上下），17,18 軍事派系（上下），19,20 軍政人物（上下），21,22 経済（上下），23 文化，24 教育，25 社会，26 目録匯編。本書簡略版として同編『文史資料存稿選編精選』（出版社同，2006 年，10 冊）もある。

全国政治協商會議文史資料委員會編『中華文史資料文庫』中国文史出版社、1996年、20巻。第1巻：晚清残局・辛亥革命・北洋軍閥統治，第2巻：五四運動・北伐戦争，第3巻：十年内戦，第4,5巻：八年抗戦，第6,7巻：三年決戦，第8巻：党派・社団・軍警憲特及其他，第9-11巻：軍政人物編，第12巻：工業，第13巻：商業・交通・郵電・旅游・其他，第14巻：金融財政・洋行買辦及其他，第15巻：文学藝術，第16巻：社会科学・科学技術・医薬衛生・体育運動，第17巻：教育，第18巻：民族宗教，第19,20巻：社会民情編。

目録としては、以下2種をあげておく。復旦大学歴史系資料室編『五十二種文史資料篇目分類索引：創刊号-1981』復旦大学出版社、1982年。李永璞主編『全国各級政協文史資料篇目索引(1960-1990)』中国文史出版社、1992年、5冊。[土田]

【中国現代思想史資料簡編】

主編の蔡尚思は1905年生まれ。1932年代前半には宋慶齡や魯迅らが組織した民権保障同盟に参加している。その他の編者には、朱維錚、李華興、姜義華がいる。浙江人民出版社、1982～1983年。時系列に構成され、第1巻(1915年9月-1921年6月)、第2巻(1921年7月-1927年7月)、第3巻(1927年7月-1937年6月)、第4巻(1927年7月-1937年7月)、第5巻(1937年7月-1945年8月)、第6巻(1945年9月-1949年9月)である。毛沢東など共産党の幹部の著作は収録されていないが、陳独秀や李大釗だけでなく、孫文や蔣介石の議論も収録されており、施復亮や費孝通など第三勢力の言論にも目配りされている。[水羽]

【中国近代思想家文庫】

人民大学出版社から2013年より公刊。110名をこえる人物がリストアップされている。戴逸を主編とし、副主編には王俊義・耿雲志をあて、「総序」では進化論、民族主義、広義の社会主義、自由主義に着目し、ラディカリズ

ムとコンサーヴァティズム、革命と改良の絡み合いを近現代中国の思潮史と位置づけている。共産党の指導者を除く政治思想家の言説を広く蒐集し、中国の政治思想史の全体像が理解できるように工夫されており、各巻の編者による「導論」も有益である。これまであまり注目されなかった第三勢力の政治思想家の例をあげると、丁文江（宋広波，以下（）内は編者）、張君勱（翁賀凱）、陶希聖（陳峰）、錢端升（孫宏雲）、雷海宗・林同濟（江沛）、賀麟（高全喜）らの著作が網羅されている。〔水羽〕

【中国近代史資料叢刊】

中国史学会主編，上海人民出版社出版。中華人民共和国建国後，近代史研究の再建をめざして編纂された資料集。内容は下記の通り。鴉片戦争（6冊，1957），第二次鴉片戦争（6冊，1978-9），太平天国（6冊，1952），捻軍（6冊，1953），回民起義（4冊，1953），洋務運動（8冊，1961），中法戦争（7冊，1957），中日戦争（7冊，1957），戊戌変法（4冊，1953），義和団（4冊，1951），辛亥革命（8冊，1957）。

【中国近代史資料匯編】

20巻64冊，中央研究院近代史研究所編，1957-2000年。清末から民国前期の日中関係（1912-1927年，18冊）・中ソ関係（1917-1921年，12冊）・中米関係（嘉慶帝～光緒帝期，7冊）などにかかわる外交文書を主題別に整理した史料集。

【中華民国史檔案資料匯編】

5輯，中国第二歴史檔案館編，江蘇古籍出版社，1979-2000年。「辛亥革命」，「南京臨時政府」，「北洋政府」（17冊），「從広州軍政府至武漢国民政府」（2冊），「南京国民政府」（3編70冊）の全5輯からなる。中華民国期の各時期の政府文書資料を，政治・外交・軍事・財政経済・教育・文化などの分野別に整理した膨大な史料集である。

■ 著作集など ■

【梁啓超年譜長編】

5冊，丁文江・趙豊田編（島田虔次編訳），1984年，岩波書店（底本は，1983年，上海人民出版社）。20世紀中国を代表する知識人・梁啓超（1873～1929）の年譜を日本語訳するとともに詳細な訳注を付す。〔田中〕

■ 定期刊行物 ■

【満鉄調査時報】

満鉄調査課，1919年12月～1944年12月。誌名は『調査時報』（～1930年1月），『満蒙事情』（1930年2月～1931年8月），『満鉄調査月報』（1931年9月～1944年12月）と変遷。編集・発行元も，時期により満鉄総務部調査課，調査部，調査局，満鉄経済調査会など変わる。満洲を中心とする中国の経済，社会等の調査・研究報告，資料，時事解説などを収録。原本のほか，マイクロフィルム版（雄松堂書店販売）とリプリント版（不二出版，1988年）があり，『『満鉄調査時報』総目次・索引』（不二出版，1986年。『満蒙事情』も含む），『『満鉄調査月報』総目次・索引』（不二出版，1987年）も出ている。〔土田〕

* * *

【申報】

近代中国の最初で最も歴史のある新聞紙。1872年にイギリス人 F.メージャーが上海で創刊（後に中国人が経営），1949年5月に廃刊された。その発行期間や影響力から，中国近代史の代表的な新聞の一つとされる。

【大公報】

中国近現代史に広範な影響を与えた代表的な民営の新聞。1902年天津で創刊（1925年停刊，翌年再興）。抗日戦争時期に新聞社は南に移り，上海，漢口，香港，桂林，重慶版などを次々に発行した。建国後，1953年から本社

を上海から天津に移し、全国向けの「大公報」を発行、1956年10月にはさらに北京に移った。1966年9月文化大革命のため停刊、64年の歴史を閉じた。なお香港「大公報」は1948年復刊後、継続して発行され、代表的な親中派の華字紙として知られる。[岩波現代中国事典]

【中華民国期の政府公報】

民国期の法令類や政府部内における会議の記録は、各政府機関別に発行された「政府公報」(1912-1928年)、「国民政府公報」(1925-1948年)、「總統府公報」(1948年から現在)、「行政院公報」,「立法院公報」などの公報類に掲載されている(閲覧・検索は、ウェブサイト「台湾」の「政府公報資訊網」を参照)。

前期中華民国

■ 資料集 ■

【北洋軍閥（1912-1928）】

全 6 卷 6 冊，中国史学会・中国社会科学院近代史研究所編，1990 年，武漢出版社。主編は第 1 卷と第 2 卷が章伯鋒と李宗一，第 3 卷以降は章伯鋒で，別に各巻ごとに編者が配されている。1912 年から 28 年の北京政府の活動をメインに，档案・未刊稿本・政府公報・回想録・文集・新聞雑誌類と中国社会科学院近代史研究所所蔵の史料が幅広く収録された史料集となっている。

内容は，第 1 卷「北洋軍閥与北京政府」（聞黎明・李学通・王善中編，717 頁），第 2 卷「袁世凱の独裁統治」（聞黎明・李学通編，1400 頁），第 3 卷「皖系軍閥与日本」（章伯鋒・孫彩霞編，1323 頁），第 4 卷「直系軍閥の興衰」（王善中・劉保康編，1034 頁），第 5 卷「北洋軍閥の覆滅」（孫彩霞・李学通編，896 頁），第 6 卷「北洋軍閥大事要録，北洋軍政人物簡志，北洋軍閥時期図書目録」（聞黎明・孫彩霞・李学通・王善中・劉建光編，728 頁）。[金子]

【天津歴史博物館蔵北洋軍閥史料】

北洋軍閥史料編輯委員会の編（主任は謝国祥）で全 4 卷 33 冊に及ぶ。天津市歴史博物館が所蔵する中華民国初期の 3 人の大総統袁世凱・黎元洪・徐世昌と国会の衆議院議長を務めた呉景濂の私的文書，書簡・電報類，公文書等を収録した史料集。なお，発行年は最初に出た袁世凱卷（全 2 冊）が 1992 年，続く黎元洪卷（全 14 冊），徐世昌卷（全 9 冊），呉景濂卷（全 8 冊）はともに 1996 年の発行である。この史料集の価値は，影印すなわち原本の写真印刷によって文書が収録されている点にある。また，収録文書は民国期だけでなく清末のものも含まれる。

袁世凱巻が収めるのは家書、朋僚函電、公牘電文、批示手書、法規類、黎元洪巻は國務院會議記録、外交部・陸軍部・参謀部・財政部等の文書、黎の文稿、朋僚函電、顧問・諮議の意見書などを収める。徐世昌巻には多様な記録・報告・意見書・覚書類や題奏・文稿、朋僚函電が、また呉景濂巻には議会関連の法規と文書、朋僚函電等が収録されている。[金子]

【北洋時期国会會議記録彙編】

全16冊からなる《民国文献資料叢編》シリーズの一つ。李強選編で2011年に国家図書館出版社より刊行された。この史料集も影印すなわち写真印刷によって北京政府期の国会関連文書が収録されている。

北京政府期の国会関連文書は、すでに影印版で出版された『政府公報』において本史料集収録の「参議院會議速記録」を見ることができる。また、北京大学出版社から出た張国福選編『参議院議事録／参議院議決案彙編』（1989年）にも、やはり本史料集収録の民国成立期の南京での「参議院議事録」や「参議院議決彙編」が載っている。

しかし、正式国会成立後の衆参両院から袁世凱の新約法下における参政院、安福国会（新国会）、広東の非常国会、1920年代前半の衆参両院に関する速記録・議決案彙編、国会に関する法令・規則類などを網羅的に収めている点で、本史料集の価値には非常に高いものがある。憲政史・議会史の研究を志す者には必携の史料集になるだろう。[金子]

【奉系軍閥密電など】

遼寧省档案館編『奉系軍閥密電』中華書局（中華民国史資料叢稿 電稿），5冊，1984-1987年。奉天派・東北関連の電文（1911～32年）を時期・問題別に分類収録する。内戦、内政関連が大多数だが、対外関係に関わる資料も含まれる。構成は、第1冊（1911-16）、第2冊（1917-25）、第3冊（1926）、

第4冊（1927-32）、第5・6冊合集（1930）。なお、第4冊には「“吳佩孚工作”档案資料」（中華民国史資料叢稿 專題）も合訂されている。

遼寧省档案館編『奉系軍閥密信』中華書局、中華民国史資料叢稿、1985年。奉天派の智将楊宇霆（1886-1929）の往復書函289件（1917～28年）に標点と注を付して収録。

遼寧省档案館編『奉^マ係軍閥密信選輯』中国档案出版社、1993年。楊宇霆を中心とする奉天派要人の往復書函406件（1902年～1931年）を影印、収録し、巻末に注釈を付す。大部分は毛筆書函。

遼寧省档案館編『遼寧省档案館珍藏張学良档案』広西師範大学出版社、1999年、6巻。遼寧省档案館所蔵の張学良関係文書をテーマ別に集め、影印・収録した資料集。構成は、一 張学良與東北易幟（档案収録216件、1928.8-29.5）、二・三・四 張学良與中原大戰（上・中・下）（収録795件、1930.1-31.1）、五・六 張学良與九一八事変（上・下）（収録323件、1928.7-33.3）、収録文書計1334件（1928年7月～33年3月）。

遼寧省档案館編『奉系軍閥档案資料彙編』南京：江蘇古籍出版社、香港：地平線出版社、1990年、全12冊。遼寧省档案館所蔵の奉天派関係文書7931件を影印し、時期別に配列した資料集（1895年～1933年）。内容はきわめて雑然としている。〔土田〕

■ 著作集など ■

【孫文選集】

伊地智善継・山口一郎監修、社会思想社、1985-1989年、3巻。第1巻（三民主義）、第2巻（革命哲学・革命観）、第3巻（中国革命史・国際政治観・対日観・孫文論）からなる。

【孫文革命文集】

深町英夫編訳，岩波文庫，2011。孫文の革命家としての言説を集成。さまざまな人々に向けられた多種多様な言説を年代順に配列し，丁寧な解題・訳注をそれぞれに付して孫文の革命思想の全貌に迫る。

【陳独秀政治論集】

石川禎浩・三好伸清編訳，平凡社，2016。『陳独秀文集』シリーズ（第1巻「初期思想・文化言語論集」[長堀祐造ほか編訳]，第3巻刊行予定）の1つ。その第2巻「政治論集1 1920-1929」は，中共建党から指導部を追われトロツキズムに転身するまでの陳独秀の言説を収録。

* * *

【孫中山全集】

11巻，中山大学歴史系孫中山研究室・広東省社会科学院歴史研究所・中国社会科学院近代史研究所民国史研究室編，中華書局，1981-1986年。孫文の著作のほか，彼の署名した領収書・題詞まで網羅的に収録する。第1巻（1890年から1911年）～第11巻（1924年9月から1925年3月）。

後期中華民国

■ 資料集 ■

【中国共産党史資料集】

12 卷，日本国際問題研究所中国部会編。勁草書房，1970-1975 年。中共創立前後から太平洋戦争終結までの，中共史に関係する基本的資料 987 篇を翻訳，収録したもの。資料収録には原典主義に立ち，既訳のものも原典によって新たに訳出しているが，資料の多くは日本で初訳である。資料は①中共の政策・方針およびコミンテルンの対中共指示や対中国・アジア方針，②中共の指導的人物の主要論文・講演，③中共と関係の深い大衆の組織の動向およびその名で発表された資料，の 3 段階に分けられ，その第 1 級資料が内外から収集されている。各資料ごとに資料考証，発出時の情況，関連資料が注記される。また各巻ごとに出典，発出日時などを明記した約 2000 項目に亘る資料目録が，年代順に事項年表と関連をもたせながら併載される。このような質量ともに充実した資料目録は，世界的には唯一のものである。更に各巻ごとに使用文献資料一覧表と索引が付けられている。なお最終巻には別冊が付けられ，これは資料目録補・全 12 巻総目次・人名総索引からなる。第 1 巻（1918 年 7 月から 25 年 8 月，128 資料）～第 12 巻（1944 年 1 月から 45 年 8 月，77 資料）。

【資料集成・中国共産党史】

7 巻，波多野乾一編，時事通信社，1961 年（1932-1938 年に外務省情報部が執務参考資料として省内発行したものの再刊）。「記述に当たっては主観を交えず，客観的に，資料本位に編集した。後年になって役に立つのは資料であって，議論ではないと信じたからである」（第 1 巻「序」）。第 1 巻（1920-1931 年）～第 7 巻（1937 年，1090 頁）。

【中華民国重要資料初編：対日抗戦時期】

7 編 26 冊，秦孝儀主編，中華民国重要資料初編編輯委員会編，中国国民党中央委員会党史委員会出版，1981-1988 年。外交部檔案・国民党中央執行委員会記録・蒋介石の機密文書，およびその他の機構の檔案を収録。①「求精不求全」を原則として未発表の資料を収録する（一般的な資料やすでに公開されている資料は収録しない）；②所収資料にはいかなる修正も行わない（標点のない資料には標点を付す）；③それぞれの資料の出所を明記する，という方針で編集された（『緒編・一』「前言」）。各編の構成は以下のとおり。第 1 編・緒編（3 冊），第 2 編・作戦経過（4 冊），第 3 編・戦時外交（3 冊），第 4 編・戦時建設（4 冊），第 5 編・中共活動真相（4 冊），第 6 編・傀儡組織（4 冊），第 7 編・戦後中国（4 冊）。

【革命文献】

中国国民党中央委員会党史委員会編。国民革命における重要文献を掲載する資料集として 1953 年 5 月に創刊。第 41 輯（67 年 12 月）以降，中心的テーマについての体系的かつ総合的な資料集となった。89 年 6 月までに 117 輯を出版。

【中共中央文件選集】

18 冊，中央檔案館編，中共中央党校出版社，1989-1992 年。中共中央の批准に基づき中央檔案館が編集（中共中央文献研究室が審査）した中華人民共和国建国以前の中共中央の文献集。各種の版本を収集してそれらを検討し，最良の版本を底本とした。毛沢東・周恩来・劉少奇・朱徳らの著作は各人の選集に収録されているため，目次に掲げるが本文は収録していない（「編輯説明」）。第 1 冊（1921-1925 年）～第 18 冊（1949 年 1-9 月）。

【中国民主同盟歴史文献匯編：1941-1949】

中国民主同盟中央文史資料委員会編，文史資料出版社，1983年。1941年から1949年までの中国民主同盟の政治綱領・宣言・声明・決議・報告・指導者談話など249篇の重要文献を収録。2012年に群言出版社によって新版が出版され，新たに17篇の文献を収録。その続編として，『中国民主同盟歴史文献：1949-1989』（中国民主同盟中央文史委員会編，文物出版社，1991年）がある。

■ 著作集など ■

【蔣介石の年譜・伝記資料について】

秦孝儀総編纂『總統蔣公大事長編初稿』13巻16冊。（台北：出版社不明），1978年～。巻1～7（全11冊）は蔣の出生から1949年までの軍事，政治活動に関する詳細な記事で，蔣の演説，電文，日記等も引用。巻8は1950-75年の大事年表と索引を収録。正式出版でなかったため，かつては閲覧困難だったが，2000年代以降，再版された。また，新たに巻9～13が同様の体裁で編纂，刊行され，1950～54年を扱っている（中正文教基金会発行，2002年～）。

王正華等編『蔣中正總統檔案 事略稿本』台北新店：国史館，2003年～蔣介石の事績と文章を年月日毎に記録する，王朝時代の実録に相当する精細な記録。第1冊（民国16 [1927]年1-8月）から第82冊（民国38 [1949]年10-12月）に至り，また多くの「冊」は上・下に分かれ，合計170冊を超える長大な記録資料。編者は冊により相違。

呂芳上主編『蔣中正先生年譜長編』台北：国史館・中正紀念堂・中正文教基金会，2014年，全12冊。『民国十五年以前之蔣介石先生』，『總統蔣公大事長編初稿』，『蔣中正總統檔案 事略稿本』等の刊行資料のみならず，国史館所蔵の「蔣中正總統文物」，スタンフォード大学所蔵の「蔣中正日記」

等の原資料も利用し編纂された、現在最も有用で信頼性の高い蒋介石の年譜資料集。

秦孝儀主編『先總統蔣公思想言論總集』40冊，中国国民党中央委員会党史委員会・中央文物供应社，1984年。蒋介石の著作・講演・式辞・談話などを主題別で網羅的に収録（約1500万字）。そのほかの蒋介石の関連著作は、『蔣總統集』（3冊，国防研究院，1965-1968年），秦孝儀主編の『總統蔣公大事長編初稿』（10巻，中国国民党中央委員会党史委員会・中正文教基金会，1978-2003年），張其昀主編の『先總統蔣公全集』（全3冊・附録，中国文化大学出版社，1984年），王正華ほか編注『蔣中正總統檔案・事略稿本』（82冊，国史館，2003年～）などがある。〔土田〕

【『毛沢東選集』と『毛沢東集』】

『毛沢東選集』（4巻。中共中央毛沢東選集出版委員会編。人民出版社，1951～53，60）は毛沢東の重要著作集で，第1～4巻は新民主主義時期のもの（1926～49）158篇が収録されている。また毛沢東がマルクス主義の活動方法，観点などについて論じた著作を収録した『毛沢東著作選読』（毛沢東著作選読編集委員会編，1964）がある。同書の邦訳には，三一書房版，日本共産党中央委員会出版部版，中国・外文出版社版がある。『毛沢東選集』は全集でなく選集であり，また編集に際して，毛沢東の枚閲を受け，文章の一部だけが収録されたり，また内容上若干の補訂が加えられたりしており，もちろん文字上の修正も行われている。研究者の間から選集に収録されていない著作を目にしたい，あるいは収録されたものも完全な形でしかも原初形態で知りたいという希望が出るのは当然であった。この要望にできるだけ近づこうとしたのが，『毛沢東集』10巻（竹内実監修，毛沢東文献資料研究会編。北望社，1970～72）である。収録の範囲は1917～49年の毛沢東の著作を最大限に収録するため，個人署名，共同署名のものを区別せず収録，また署名がなくとも，毛沢東の著作であるとする根拠のあるもの，あるいは著作と推定されるものは採録する。しかし『毛沢東選集』などにしか収録されていないものは，

除外されている。採用テキストは初出あるいはそれに近いテキストを優先的に採用し、誤植・不明箇所などは他のテキストにより訂正・補充し、採用テキストと『毛沢東選集』収録のものとの異同は、注記するなどしている。配列は執筆日時順（編年体）で、全巻で429篇に達する。本書は『毛沢東選集』を利用する際には、必ず参照すべき資料である。なお『毛沢東選集』所収の諸論文を、その初出形態に立ち返って研究、特に毛沢東の階級区分論にひきつけて研究し、毛沢東理論の史的変遷を理論化しようとした労作、今堀誠二『毛沢東研究序説』（勁草書房、1966）がある。

■ 定期刊行物 ■

【中央日報】

中国国民党機関紙。1928年2月、上海で創刊。49年3月、本社を南京から台北に移転した。2006年6月停刊。

【解放】

中共中央機関誌。1937年4月延安で創刊。週刊（のち半月刊）で、1941年8月に第134期を発行して停刊。張聞天・廖承志・徐冰らがこの工作を指導した。[中国共産党史大辞典：524-525]

【解放日報】

中共中央機関紙。1941年5月、抗日根拠地で発行された最初の大型日刊紙として延安で創刊。47年3月停刊。[中国共産党史大辞典：718]

人民共和國

■ 資料集 ■

【原典中国現代史】

8巻。岩波書店，1994-1996年。各巻の構成は，第1巻『政治』上，第2巻『政治』下，第3巻『経済』，第4巻『社会』，第5巻『思想・文学』，第6巻『外交』，第7巻『台湾・香港・華僑華人』，第8巻『日中関係』である。読者が原典資料に即して現代中国の歩みをたどることができるように，それぞれ最も基本的な資料の最も重要と思われる箇所を選んで，それらが発表された背景や意義に関する解説とともに紹介する。別巻として『中国研究ハンドブック』がある。

【新中国資料集成】

5巻，日本国際問題研究所・中国部会編，1963-1971年。第2次世界大戦終了前後から1958年までの中国の政治・経済・軍事・外交などに関する基本的資料を翻訳・収録する（第1巻「解題」）。第1巻（1945年から1947年，130資料）～第5巻（1955年8月から1958年2月，61資料）。

【中国大躍進政策の展開】

上下2巻，日本国際問題研究所中国部会編，日本国際問題研究所，1973-1974年。1958年2月から1960年4月までの政治・経済・軍事・外交・文化・教育等の基本資料を編纂・翻訳し，解説を付加する（131+4文献を収録）。

【中ソ論争主要文献集】

欧ア協会編（外務省国際資料部監修），日刊労働通信社，1965年。1964年10月のフルシチョフ失脚にいたる中ソ論争関係資料（基本資料15件，

中共関係資料 57 件，ソ連関係資料 71 件）を収録する。また『続中ソ論争 主要文献集』（北東出版宣伝，1967 年）は，1966 年 12 月までの資料（中共関係資料 39 件，ソ連関係資料 37 件）を収める。

【文化大革命に関する邦文の資料集】

①新島淳良編『毛沢東最高指示 プロレタリア文化大革命期の発言』三一書房，1970 年；②東方書店出版部編『中国プロレタリア文化大革命資料集成』全 5 巻+別巻（年表）1，東方書店，1970-71 年；③竹内実編『ドキュメント現代史 16 中国文化大革命』平凡社，1973 年；④加々美光行編『資料 中国文化大革命—出身血統主義をめぐる論争』りくえつ，1980 年。②は中国当局の公表文献のみを集めたものであり，他は未公開資料も収めている。④は表題が示すとおり，編者独自の観点から文革に迫ろうとしている。[現代中国研究案内]

【日中関係基本資料集 1949 年～1969 年】

外務省アジア局中国課監修，霞山会，1970 年。20 年間における中国政府の対日政策の推移を明らかにすることを主要な目的として中国政府側の資料を多く収録し，日本資料は必要最小限にとどめている。1.日中間の政治・外交関係，2.日中間の貿易・漁業関係等，3.中共地区残留邦人引揚関係，4.その他，に関する 126 資料を収録。また『日中関係基本資料集 1970 年～1992 年』（霞山会，1993 年）は上記資料集の続編で，192 資料を収録する。

【中国共産党最新資料集】

上下 2 巻，太田勝洪・小島晋治・高橋満・毛里和子編，勁草書房，1985-1986 年。1978 年 12 月の中共 11 期 3 中全会から 1984 年 10 月の 12 期 3 中全会までの重要文献 106 件と参考資料 5 件を収録。

【チャイナ・クライシス重要文献】

3 巻，矢吹晋編訳，蒼蒼社，1989 年。「経済改革のもたらした経済危機が

政治的危機、体制的危機に発展した中国について、その動態を分析するために可能なかぎりの資料を収集し、編集・邦訳した」(凡例)。「I.胡耀邦総書記失脚の場合」から「XVI.民主化“動乱”始末」まで270文献を収録。

* * *

【建国以来重要文献選編】

20冊, 中共中央文献研究室編, 中央文献出版社, 1992-1998年。建国から「文化大革命」前夜にいたる時期の, 中共中央・全国人民代表大会・政務院と国務院・中央軍事委員会が出した基本文献, それらが各所轄部門に示達した重要文献, 中央の指導者・部門責任者が発表した重要講話・文章, 中央の意向を伝達する重要な社論, および歴史的に少なからず影響を与えたあるいは重要な理論的意義を有する非公式文献・講話記録を収録(第1冊所収の「出版説明」)。第1冊(1949-1950)～第20冊(1965)。

【農業集体化重要文件匯編】

2冊, 国家農業委員会弁公庁編, 中共中央党校出版社, 1982年。土地改革, 合作社運動, 人民公社, 生産責任制政策など, 1949年から1981年までの農業に関わる中央の重要決議や指示, リーダーの重要講話などを収録した内部(党内発行)の資料集である。

【中国共産党組織史資料: 1921-1997】

中共中央組織部ほか編『中国共産党組織史資料: 1921-1997』9巻, 附巻全4巻(中共党史出版社, 2000)は, 共産党結党から1997年の共産党第15回大会にいたる時期の共産党中央とその指導下にある政権・軍隊・統一戦線・大衆団体の組織に関する史料集である。各組織の沿革と名称の変化, および構成員の在職期間を記す。1984年から中央党史資料徴集委員会を中心に編纂作業が進められたが, 1988年の党史研究室改組の後, 共産党の中央組織部が主導的役割を担うことになった。この史料集(中央巻)刊行から1999

年までに、中央、省、地区、県4級3067部の組織史資料が出版された【解題2】。組織史資料の編纂作業は、現在も引き続き進行している。[田中]

【中国当代政治運動史数拠庫：1949～1976】

宋永毅（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス分校図書館）を中心に、アメリカ在住の中国系研究者が中台の学者とともに構築したデータベースで、香港中文大学中国研究服務中心の技術協力で、CD-ROMも発売されている。データベースは、9089篇を収める「中国50年代初中期的政治運動資料庫・從土地改革到公私合營：1949-1956」（美国哈仏大学費正清中国研究中心，2014年），10102篇を収める「中国反右運動数拠庫：1957-」（香港中文大学中国研究服務中心，2010年），6024篇を収める「中国大躍進一大飢荒数拠庫：1958-1962」（香港中文大学中国研究服務中心，2013年），6749篇を収める「中国文化大革命数拠庫：1966-1976」（香港中文大学中国研究服務中心，2002年）という独立した4つのサブ・データベースから構成されている。

【反右絶密文件】【千名中国右派的处理結論和個人檔案】

12巻と6冊、いずれも宋永毅（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス分校図書館）主編、国史出版社，2015年。宋を中心に、アメリカ在住の中国系研究者と中国大陸の学者をメンバーとする「中華人民共和国檔案編委会」によって編集された。両者とも反右派運動についての史料集である。『反右絶密文件』は当時中共中央弁公庁が出した極秘文書「情況簡報（整風專輯）匯編」（1957年6月30日-1958年4月29日，計65期約300万字）を12巻に分けて完全収録。『千名中国右派的处理結論和個人檔案』は中共中央監察委員会弁公庁が1958-1960年に出した極秘文書「關於清除党内反右派分子的決定匯編」（個人檔案285件）のほか，1000件近くの右派分子の処分決定を6冊に分けて収録している。

【新編紅衛兵資料（*A New Collection of Red Guard Publications*）】

20 vols (Part I: Newspapers), edited by Yuan Zhou, Center for

Chinese Research Materials, 1999. 紅衛兵および大衆組織が発行した小新聞約 400 種, および軍事機関・軍系統の紅衛兵・大衆組織が発行した小新聞約 80 種を収録する。[田中]

【内モンゴル自治区と文化大革命：モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料】

既刊 9 冊, 楊海英編, 風響社出版, 2009 年-。本資料集は内モンゴル自治区で行われた中国文化大革命に関する第一次資料を解説し, 影印したもの。各巻の内容はつぎのとおり。第 1 冊「滕海清将軍の講話を中心に」, 第 2 冊「内モンゴル人民革命党肅清事件」, 第 3 冊「打倒ウラーンフー（烏蘭夫）」, 第 4 冊「毒草とされた民族自決の理論」, 第 5 冊「被害者報告書 (1)」, 第 6 冊「被害者報告書 (2)」, 第 7 冊「民族自決と民族問題」, 第 8 冊「反右派闘争から文化大革命へ」, 第 9 冊「紅衛兵新聞(1)」。

【大陸地下刊物彙編】

20 輯, 中共研究雜誌社編（「中共研究参考叢書」）, 1980 年～, 台湾・中共研究雜誌社。『探索』『四五論壇』『人民之声』『啓蒙』『求是報』など, 「北京の春」期に中国で発行された民間出版物を収録。組版は原版の「横組み・簡体字」を「縦組み・繁体字」に改める。[田中]

【俄羅斯解密檔案選編：中蘇関係】

12 巻, 沈志華編, 東方出版中心。2015 年。1945 年 1 月～1991 年 12 月の中ソ関係に関するロシア文書館所蔵文書（中ソ両党・両国政府間の電報・書簡・照会, 会議記録・談話, ソ連共産党幹部会の記録・報告, ソ連党・政府の決議・指令・通知, ソ連駐中大使館関連文書, ソ連共産党と各国共産党との関連文書など）2625 件を中国語訳して収録する。[田中]

【中華人民共和国史編年】

当代中国研究所は, 人民共和国史に関する研究・編纂・出版と関連史資料

の収集と整理を目的として 1990 年に設立された。該書は当代中国研究所による編年体歴史書で、各年 1 巻としこれまでに「1949 年巻」から「1962 年巻」までの 14 巻が刊行されている。(1)月日と史事を明示する「綱文」、(2)大事始末を叙述する「目文」、(3)重要人物のプロフィールと諸説が存在する際の「注釈」、(4)「文献」、(5)「図」からなる。[田中]

■ 著作集など ■

【『毛沢東選集』第 5 巻と毛沢東関連史料】

毛沢東は、読者に内容・叙述の両面で完璧なテキストを提供したいと考え、自らの著作に系統的な改訂を加えた。人民共和国成立後に編纂・出版された『毛沢東選集』（人民出版社，1952-1960）に収録された文章に、彼自身の同意とリーダーシップのもとで系統的な補充と改訂が施されていたことはよく知られている。毛沢東なき後、「二つすべて」（毛沢東が行ったすべての決断を断固堅持しすべての指示に一貫して従う）を掲げる華国鋒指導部による『毛沢東選集』第 5 巻（人民出版社，1977）は、1949～1957 年の重要著作 70 篇を収録して 1977 年 4 月に刊行した。収録されたテキストなどについての疑義を収める有効なロジックを欠き、華は「真理の基準」論争に敗北する。このことは第 5 巻のイデオロギー的正当性の喪失を意味していた。

1991 年、『毛沢東選集』の注釈部分を改定した第 2 版（全 4 巻，人民出版社）が刊行された。この後、毛沢東生誕 100 周年を記念して刊行を始めた『毛沢東文集』全 7 巻（人民出版社，1993-1997）は、1921～1976 年の文稿を「改訂を行わず、誤字・脱字は注記を付す」かたちで収録する。また『建国以来毛沢東文稿』全 13 冊（中央文献出版社，1987-1988）は、(1)手書き文書（文章，指示，講話要綱，コメント，書簡，詩詞，文書への加筆），(2)彼自身が認可した講話や談話記録，(3)彼自身が認可し彼自身の名前で出されたその他の文書を収録する。さらに『建国以来毛沢東軍事文稿』全 3 巻（軍事科学出版社ほか，2010）は、電報，指示，講話，談話，書簡，題辞など 821 篇を

収録する(91篇が初出)。このほか『毛沢東軍事文集』全6巻(軍事科学出版社ほか,1993),『毛沢東西蔵工作文選』(中国文献出版社ほか,2008),『毛沢東新聞工作文選』(新華出版社,1983),『毛沢東文芸論集』(中央文献出版社,2002)などがある。

さらに『毛沢東年譜(1893-1949)』全3巻(中央文献出版社,2002),『毛沢東年譜(1949-1976)』全6巻(中央文献出版社,2013),『毛沢東伝(1893-1949)』(中央文献出版社,2004),『毛沢東伝(1949-1976)』全2巻(中央文献出版社,2008)が刊行されている(いずれも中共中央文献研究室編)。これらは中央档案馆が所蔵する一次文献をふくむ多様な方途のもと精緻な考証による編纂がなされている。[田中]

【毛沢東の秘められた講話】

マックファーカーほか編(徳田教之ほか訳),上下,岩波書店,1992,1993。同書は,百花斉放期と大躍進期における毛沢東の未公開発言の日本語訳である。原著(MacFarquar ed.,1989)は,アメリカの研究機関が収集した共産党関連史料から1957年と1958年の毛沢東発言19篇を英訳して収録する。邦訳では,この英訳テキストを参照しながら典拠となった中国語の原典からの翻訳をおこなうとともに,(1)毛沢東著作年表(1934-68年),(2)19篇に関するテキストの異同を整理する。

【鄧小平文選】

鄧小平の言行をまとめた公式文献集。いずれも人民出版社から出版された。最初のものは1983年に出版され,75年から82年9月までの講演・指示がまとめられている。89年に出版された文選は,38年から文革で失脚する65年までの鄧の言行を収録する。93年出版の文選には初めて第3巻と巻数がつき,それまでの2巻は遡ってそれぞれ第1巻,第2巻と呼ばれるようになった。この第3巻は82年9月から92年9月までの講演・指示などが収められ,92年初頭の南巡講話が巻末に置かれている。[岩波現代中国事典]

【指導者の選集・文稿・年譜・伝記】

中央文献編輯委員会・中央文献研究室などによる毛沢東以外の指導者の選集・文稿・年譜・伝記には次のようなものがあり、多くは中共関係のウェブサイトで公開され、全文閲覧できる（「ウェブサイト」項目を参照）。[選集]：『周恩来選集』全2巻（人民出版社，1980），『朱徳選集』（人民出版社，1983），『陳雲文選』全3巻（人民出版社，1995）。[文稿]：『建国以来周恩来文稿』全3冊（中央文献出版社，2008。1949年6月～50年10月の文章，電報，書簡，コメント，題辭約1000編を収録），『建国以来劉少奇文稿』全7冊（中央文献出版社，2005，2008。[年譜]：『周恩来年譜（1949-1976）』全3巻（中央文献出版社，1997），『劉少奇年譜（1898-1969）』全2巻（中央文献出版社，1996）。[伝記]：『周恩来伝（1898-1976）』全2巻（中央文献出版社，2008），『劉少奇伝（1898-1969）』全2巻（中央文献出版社，2008）[田中]

■ 定期刊行物 ■

【北京週報】

外国語で中国の時事ニュースを伝える週刊紙。1958年周恩来総理の提議によりまず英文版が創刊され、63年、日、仏、独、スペイン語の各版が出版された。重要文献が全文掲載されることも多く、資料価値は高い。[岩波現代中国事典] 日本語版は2000年12月号で発行停止となった。

* * *

【人民日報】

中国共産党中央委員会機関紙。1948年、中共華北局機関紙として創刊され、翌年、党中央委員会機関紙に昇格した。全中国の報道機関の頂点に立ち、報道内容は直接党・政府の政策・方針を反映し、中国を知るうえでも最も有力な新聞であるが、反面、党中央の権力を握る勢力や首脳のお考え方に左右さ

れる傾向が強い。85年、海外の華僑・華人、外国人読者のため「海外版」を創刊した。[岩波現代中国事典]

【解放軍報】

人民解放軍機関紙。1956年北京で創刊。67年より日刊となり、当初は軍内向けのみだったが87年より国内外に公開発行となった。[岩波現代中国事典]。

【新華月報】

内政・外交にわたる重要な文献・資料を集めた月刊誌。1949年11月北京で創刊。党と政府の重要文献はもちろん、指導者の講話と文章、中央の有力新聞・雑誌の社説、調査報告や経験の総括なども掲載されるため参考価値が高い。[岩波現代中国事典]

【紅旗】

中国共産党中央委員会発行の政治理論誌。1958年6月創刊、30年間続き、88年6月停刊。58年の8期5中全会で毛沢東が理論と実際を結合した革命理論誌を発行することを提議し、創刊を決定した。最初、半月刊だったが、65年から月刊となり、80年半月刊に戻った。停刊後、その役割は『求是』に引き継がれた。[岩波現代中国事典]

工具書

【岩波現代中国事典】

天児慧・石原享一・朱建榮・辻康吾・菱田雅晴・村田雄二郎編，岩波書店，1999年。1949年の中華人民共和国の成立から建国50周年の1999年までの50年間の歴史を主たる対象とし，1)政治・経済はもとより重要と思われる文化・社会に関する事項や人物，2)この50年に密接にかかわる49年以前の重要な事項と人物，3)台湾・香港・華僑華人・民族に関連する項目など4300余項目を収録する（序）。巻末に「和文索引」「中国語索引」「英語索引」を付す。

【近代中国人名辞典】

山田辰雄編，霞山会，1995年。1)日本における研究成果に基づいて編集する，2)日中関係を重視する，3)執筆者の署名入り原稿とする，4)人名の記載に拼音を用いる，5)中国近現代史を学ぶ専門家・学生・一般読者に対してその人物についての基礎的データを提供する，という方針で1100人を収録する（緒言）。

【現代中国人名辞典】

現代中国人名辞典編集室編，霞山会，1966-1995。1966年版，1972年版，1978年版，1982年版，1986年版，1995年版的6度にわたり出版されており，台湾を含めて中国5000人余りの重要人物を収録。民族・職業・経歴などを五十音順で収録しているほか，巻頭に五十音順索引と難解字・簡体字の字画索引，ウェード式拼音索引を付している。

【二〇世紀満洲歴史事典】

貴志俊彦・松重充浩・松村史紀編，吉川弘文館，2011年。19世紀末の清朝末期から中華民国，日本統治時代を経て中華人民共和国期に至るまでの満洲の政治，経済，社会，文化等の特徴と歴史の変遷について，約800の項目により解説する。第Ⅰ期 満洲事変勃発まで，第Ⅱ期 満洲国時代，第Ⅲ期 戦後から20世紀末への三部で構成。〔土田〕

* * *

【中国共産党人名大辞典】

盛平主編，中国国際広播出版社，1991年。1920年代から90年代まで，中国共産党およびそれに近い革命家・政治家1万人を収録する大型の現代人名辞典，除名された者や失脚した者も含まれている。〔中国研究ハンドブック〕

【当代中国政治大事典】

廖蓋隆ほか編，吉林文史出版社，1991年。1949年の中華人民共和国成立から1990年12月までの，党の内部組織，主要会議，内政外交の重大事件，主要法規，主要人物などについての大型事典。これまでになく詳細かつ客観的に叙述されている。

【民国人物大辞典】

徐友春主編，河北人民出版社，1991年。1912年から1949年までの民国時期の，政界・軍・経済界・科技文化教育分野・宗教界など各界の人物12000余りを筆画順で収録している。各項目の内容は，生没年・別称・出身地・経歴・主要著作などを含む。2007年に第2版（増訂版）が出版され，収録人物を17000人まで増加したほか，「付録」には，民国各時期の議会の議員名簿などが収録されている。

ウェブサイト

現代の学術研究は、インターネット無しでは、ほぼ立ち行かなくなっている。とはいえ、ネットの広大な海から必要とする情報を探し出すのは、検索エンジンが発達したとはいえ、まだまだ難しい。よって下記では、主としてインターネット上にある、中国政治史研究に有用かつ基本的に無料で閲覧できるサイトを紹介したい。下記のサイトにあるデータベースや電子図書館などを通じて、効率的に必要とする情報を得ることができるだろう。また学界や学術雑誌のページを定期的をめぐることで、最新の研究状況を得ることができる。(大澤肇)

日本

【アジア歴史資料センター】

<http://www.jacar.go.jp/index.html>

国立公文書館，外務省外交史料館，防衛省防衛研究所図書館所蔵のアジア関係史料（近現代における日本とアジア近隣諸国等との関係に関わる歴史的文書）を公開。

【国立国会図書館】

<http://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館をはじめ，全国の公共図書館，公文書館，美術館や学術研究機関等が提供する資料，デジタルコンテンツを統合的に検索できる。

【CiNii】

<http://ci.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所（NII）による論文検索サービス。「CiNii PDF オープンアクセス」のほか本文を閲覧できる（一部有料）。

【日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所】

<http://www.ide.go.jp/>

「報告書・レポート」で多くの研究成果・出版物がダウンロードできる。

「デジタルアーカイブス」で，戦中から戦後初期にかけての多くの資料を公開している。

【デジタル記念館：慰安婦問題とアジア女性基金】

<http://www.awf.or.jp/>

「女性のためのアジア平和国民基金」（アジア女性基金，2007年解散）のウェブサイト。12年間におよぶ事業，国内外の「慰安婦」に関する議論を公

開。「文書庫」では、『政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成』全5巻（龍溪書舎，1997年）が閲覧できる。

【データベース：世界と日本】

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>

東京大学東洋文化研究所などによる。戦後日本の国際関係における重要文書や演説のテキストを収録する「日本政治・国際関係データベース」と「データベース 20世紀・21世紀年表」「略語データベース」からなる。「日本政治・国際関係データベース」では、「戦後国際政治の基本文書」「日中関係」「日台関係」「中国の安全保障政策」「日本の歴史認識問題」「中韓関係」などについての基本資料（テキスト形式）を閲覧できる。

【東洋学文献類目検索】

<http://ruimoku.zinbun.kyoto-u.ac.jp/ruimoku/>

京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター『東洋学文献類目』の検索ツール。東洋学に関する論文と単行本を年次ごとにまとめ、内容によって分類した網羅的索引である。1981年度版以降はデータベース化され Web 検索が可能になった。

【東洋文庫】

<http://www.toyo-bunko.or.jp>

所蔵史料・図書の検索。全文公開データベースには、戦前の書籍や雑誌の他、モリソン・パンフレットなどがアップされている。

【日本国際問題研究所】

<http://www2.jiia.or.jp/>

電子版『国際問題』は第550号（2006年4月）から閲覧できる。各号にある「国際問題月表」（Ⅰ国際関係、Ⅱ日本関係、Ⅲ地域別）も有用。

* * *

【愛知大学現代中国学会】

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~genchu/gakkai/index.html>

機関誌『中国 21』の目次を公開

【アジア政経学会】

<http://www.jaas.or.jp/>

機関誌『アジア研究』のバックナンバーを PDF で公開

【大阪大学中国文化フォーラム】

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/~c-forum/>

ディスカッション・ペーパー，OUFC ブックレットを公開。

【史学会】

<http://www.shigakukai.or.jp/>

会誌『史学雑誌』の目次を公開。

【社会経済史学会】

<http://sehs.ssoj.info/>

会誌『社会経済史学』の目次を公開。

【NIHU 現代中国地域研究】

<http://china-waseda.jp/>

「出版物」で『日本当代中国研究』などを公開。

【中国研究所】

<http://www.chuken1946.or.jp/>

機関誌『中国研究月報』および『中国年鑑』の目次を公開。

【中国現代史研究会】

<http://modernchina.rwx.jp/>

会誌『現代中国研究』のバックナンバーを公開。

【中国社会文化学会】

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/ASCSC/index.html>

会誌『中国：社会と文化』の目次を公開。

【東洋史研究会】

<http://www.toyoshi-kenkyu.jp/>

学会誌『東洋史研究』第51巻第1号（1992年6月）から京都大学学術情報レポジトリで公開。

【日本現代中国学会】

<http://www.genchugakkai.com/>

学会誌『現代中国』の目次を公開。

【日本国際政治学会】

<http://jair.or.jp/>

学会誌『国際政治』の目次を公開。また電子ジャーナル『国際政治』をJ-STAGEで公開。

【広島史学研究会】

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiroshig/>

学会誌『史学研究』の目次を公開。

【歴史科学協議会】

<http://www.maroon.dti.ne.jp/rekikakyo/>

会誌『歴史評論』の目次を公開。

【歴史学研究会】

<http://rekiken.jp/>

会誌『歴史学研究』の目次を公開。

中国

【北大法律信息网】

<http://www.chinalawinfo.com/>

北京大学法制信息中心。中国国内の法学研究の動向を全般的に紹介。データベースで中国現代法学と法制史の論文・書評を閲覧できる。また現代中国法規の検索も可能。

【北京市檔案信息网】

<http://www.bjma.org.cn/Default.ycs>

北京市檔案館。民国時期檔案，中華人民共和國時期檔案，檔案資料，北京市労働模範檔案，訴訟檔案，工商稅務檔案の目録を検索できる。また民国時期の北平市政府，北平市社会局，北平市民政局，北平市教育局，北平市衛生局の五部門の檔案を閲覧できる。（閲覧には専用のビューアーが必要）

【CADAL 数字図書館】

<http://www.cadal.zju.edu.cn>

CADAL Digital Library。中国とアメリカの研究機関によるデジタルライブラリー・プロジェクト。2016年現在、250万冊のデジタル化を完了している。「古籍」「民国図書」「民国期刊」「現代図書」「学位論文」「報紙」などからなる。（閲覧には登録が必要）

【CALIS 聯合目錄公共检索系統】

<http://opac.calis.edu.cn/simpleSearch.do>

中国高等教育文献保証系統。北京大学を中心に多くの大学図書館による統合検索システム。660万件を超える書目の横断検索ができる。

【大成故紙推】

<http://www.dachengdata.com/search/toReallIndex.action>

「旧期刊全文数据库」「民国図書全文数据库」「申報」「中国各地古方志集（～1949）」「古籍文献全文数据库」「中共党史期刊数据库（～1949）」「順天時報」、『大美晩報』（1943年～1946年）からなるデータベース。『申報』（1872～1949）、『順天時報』（1907～1930）、『大美晩報』（1943～1946）が閲覧できる。他はキーワード検索と目録の閲覧が可能。

【『東方雑誌』全文検索データベース】

<http://cpem.cp.com.cn/>

清末から民国時期にかけて、中国最大手の総合雑誌であった『東方雑誌』のテキスト・データベース。

【法律史学術網】

<http://flwh.znufe.edu.cn/index.asp>

中南財經政法大学法律文化研究院。「法律史料」では関連史料がテキスト形式で閲覧できる。「法史文庫」では、中国法制史、外国法律史、比較法史に関する論文を検索・閲覧できる。

【国学網】

<http://www.guoxue.com/>

首都師範大学電子文献研究所。古籍全文データベース『国学宝典』をテキスト形式で閲覧できる（無料版と有料版がある）。

【蔣介石与近代中国研究中心】

<http://www.ch.zju.edu.cn/jjsandchina>

浙江大学人文学院。蔣介石や国民党に関する論文を閲覧できる。また内外

の蒋介石研究の動向を紹介する。

【民国图片资源庫】

<http://www.minguotupian.com/>

中国国家図書館によるもの。民国時期の写真 70 万枚あまりを、人物・事件・シーンなどにより検索できる。試用申請可能。

【人民網】

<http://www.people.com.cn/> ; <http://www.people.ne.jp/>

中国共産党中央委員会機関紙『人民日報』の Web サイト。『人民日報』掲載記事のほか、他の全国紙・地方紙・専門紙からの転載も大量に掲載する。ニュースのほかにも、政府・要人国情などのデータ、図書・出版に関する情報などのコンテンツが充実している。

【蘇聯解密檔案数据库】

<http://hsd.bbtdb.com/Index.aspx>

華東師範大学「冷戦国際史研究センター」、沈志華氏などが収集したロシアのアーカイブ史料 70 万件あまりのデータベース。ネット上ではログインしない限り原史料の画像は閲覧できないが、主題、人物、事件などのフリーワード検索は可能。

【中共中央文献研究室】

<http://www.wxyjs.org.cn/>

中国共産党と中国の重要歴史文献や主要指導者の著作を網羅的に掲載。指導者の著作集 54 冊、党の重要文献集 76 冊、指導者の年譜・伝記 36 冊などが閲覧できる。

【中国檔案資訊網】

<http://www.zgdazxw.com.cn/>

中国国家檔案局。中国各地檔案館の情報、動向を中心に紹介する。中央、省、地方への檔案局や海外の檔案ウェブサイトへのリンクが豊富。

【中国共産党新聞網】

<http://cpc.people.com.cn/>

中国共産党を紹介・宣伝する最も体系的・全面的なサイト(人民網が主管)。「党史資料庫」(<http://dangshi.people.com.cn/GB/234123/index.html>)では、共産党及び党の主要人物に関する文献資料、会議紀要、著作、写真、映像などを網羅的に収録しており、全文閲覧できる。「党史人物記念館」には党の要人の専門ページが設置されている。「党史頻道」でも、中共史に関わる基本資料や著作を網羅に収めている。

【中国共産党歴史網】

<http://www.zgdsw.org.cn/>

中共中央党史研究室。近年の党史研究の成果や重要人物の回想録を掲載する。最近出版された『中国共産党歴史』(第一、二巻)、『中国共産党簡史』『中国共産党的七十年』『中国共産党歴史大事記』など中央党史研究室編の書籍を閲覧することができる。

【中国国家数字図書館】

<http://www.nlc.gov.cn/>

中国国家図書館。OPAC 等から所蔵図書を検索ができる。また「数字資源」からEジャーナルなどを閲覧できる。「特蔵珍品」では民国期の書籍や雑誌、地方史などの閲覧が可能である。Pdf 形式で提供されている書籍以外は専用のリーダー(閲読器)をダウンロードし、インストールする必要がある。

【中国冷戦研究】

<http://www.coldwarchina.org/>

華東師範大学国際冷戦史研究センター。冷戦史研究のアーカイブ状況や目録についての情報を集約・発信する。

【中国知網】

<http://www.cnki.net/>

中国学術期刊（光盤版）電子雑誌社。中国で発表された学術論文，雑誌，新聞などの情報を横断的に検索できる。本文をダウンロードするには登録が必要（有料）。

【中華人民共和国国家統計局】

<http://www.stats.gov.cn/>

「統計数据」で各種統計資料を閲覧できる。

【中華人民共和国史網】

<http://www.hprc.org.cn/>

当代中国研究所による。「文献資料」「統計資料」「政府の白書」などを閲覧できる。

中国地方志

中国での地域社会や地方での政治を研究する場合、地方の新聞や雑誌の他に、『地方志』と呼ばれる書物を紐解くのが鉄則であるが、近年編集・出版された『地方志』は、ネット上で公開されていることが少なくない。以下、上記に関するサイトを、北から省・自治区単位で簡単に紹介する（より詳しい内容紹介については、中村元哉・大澤肇・久保亨編『現代中国の起源を探る——史料ハンドブック』東方書店、2016年を参照されたい）。（大澤肇）

【中国龍志網】

<http://www.zglz.gov.cn>

黒龍江省の一部地方志を収録・公開。

【吉林省情網】

<http://www.jlsq.gov.cn>

吉林省の一部地方志を収録・公開。

【北京記憶】

<http://www.bjmem.com>

北京に関する1200冊あまりの書籍、及び1949年以前到北京で出版されていた新聞5タイトルの一部を収録・公開。

【天津市地方志網】

<http://www.tjdfz.org.cn>

天津市の一部地方志を収録・公開。

【河南省情網】

<http://www.hnsqw.com.cn/sqsjk/>

河南省の一部地方志を収録・公開。

【陝西省地情網】

<http://www.hnsqw.com.cn/sqsjk/>

陝西省の一部地方志を収録・公開。

【上海通】

<http://www.shtong.gov.cn/newsite/node2/index.html>

上海市の一部地方志や民国時期の『上海年鑑』などを収録・公開。

【浙江図書館館蔵報紙】

http://diglweb.zjlib.net.cn:8081/zjtsg/paper/paper_dl.htm

浙江図書館が所蔵する新聞のうち、デジタル化された 2 タイトルが閲覧できる。

【浙江図書館民国期刊数据库】

http://diglweb.zjlib.net.cn:8081/zjtsg/qk/qk_dl.htm

浙江図書館が所蔵する民国時期の雑誌のうち、204 タイトルが閲覧できる。

【安徽地方志】

<http://www.ahdfz.gov.cn/web/Channel.aspx?chn=459>

安徽省の一部地方志を収録・公開。

【湖北方志網】

<http://www.hbdfz.com.cn/number/>

湖北省の一部地方志を収録・公開。

【貴州省地方志全文数据库】

<http://dfz.gznu.edu.cn/tpi/sysasp/include/index.asp>

貴州省の一部地方志を収録・公開。

【広東省情網】

<http://www.gd-info.gov.cn/shtml/guangdong//sqsjk/>

広東省の一部地方志を収録・公開。

【広州地情網】

<http://www.gzsdfz.org.cn/sqsjk/>

広州市の各種地方志を収録・公開。

【広西地情網】

<http://www.gxdqw.com>

広西チワン族自治区の一部地方志を収録・公開。

【新疆地情網】

<http://120.205.8.219>

新疆ウイグル族自治区の一部地方志を収録・公開。



【村寨網：中国西南少数民族】

<http://ethno.ihp.sinica.edu.tw/>

中央研究院歴史語言研究所。「典藏資料庫」で同研究所が1928～1943年に収集した中国西南少数民族に関する民具・写真・古文書の画像を閲覧できる。

【典藏台湾】(Taiwan Digitalarchives)

<http://digitalarchives.tw/>

台湾デジタルアーカイブ・プロジェクトの統一検索システム。また「成果網站資源」は網羅的なリンク集である。

【国立公共資訊図書館・数位典藏服務網】

<http://das.ntl.gov.tw/>

国立公共資訊図書館によるデジタルライブラリ。「古文書」「日文旧籍」「旧報紙」「老照片」「客家文物」から検索でき、1961年以前の新聞・日本語古書籍・古文書・写真を閲覧できる。

【国史館数位檔案検索系統】

<http://ahdas.drnh.gov.tw/>

国史館のデジタルアーカイブ検索システム。「總統副總統文物」と「一般史料檔案」の検索ができる。(国民政府檔案のオンライン閲覧は要申請)

【立法院法律系統】

<http://lis.ly.gov.tw/lglawc/lglawkm/>

立法院の法律検索システム。4000余件の「法律案」や600余件の「廃止案」を収録。立法院が制定・修正・廃止した法律の検索・閲覧ができる。

【民国三八年前重要剪報資料庫】

<http://cdm.lib.nccu.edu.tw/cdm/landingpage/collection/38clip>

政治大学社会科学資料センターが所有する新聞スクラップのデータベース。1930～1949年に中国大陸で発行された新聞資料を中心に約14万件の資料を収める。

【民俗台湾】

<http://da.lib.nccu.edu.tw/ft/>

政治大学図書館による『民俗台湾』は日本統治時代の台湾で日本人が中心となり1941年7月から1945年1月まで47号が発行された。このデータベースでは記事名・著者名などによる検索ができる。(画像の閲覧には申請が必要)

【台湾大学政治学系中国大陸暨兩岸關係教学研究センター】

<http://politics.ntu.edu.tw/RAEC/>

「訪談與資訊」では、外国の中国研究者(マイヤーズ、溝口雄三、野村浩一など)に対するインタビューを、「専書系列」では関連論文を閲覧できる。

【台湾研究古籍資料庫】

<http://rarebooks.ith.sinica.edu.tw/>

中央研究院台湾史研究所。「台湾総督府図書館」「南方資料館」など1950年以前に出版された書籍や新聞・雑誌を収める。検索は可能であるが画像閲覧はオンライン申請が必要。

【台湾政治與社会發展海外史料資料庫】

<http://da.lib.nccu.edu.tw/tdm/>

政治大学図書館。1950年代～1990年代に日本・アメリカ・ヨーロッパで台湾人によって発行された刊行物のデジタルライブラリ。現在85種類の刊行物を収録、検索・閲覧には申請が必要。

【台湾史檔案資源系統】

<http://tais.ith.sinica.edu.tw/sinicafrsFront/index.jsp>

中央研究院台湾史研究所によるデジタルアーカイブ。同研究所所蔵の「個人文書與集蔵」「家族與民間文書」「機構団体檔案」の基本情報と概要を紹介。検索は可能であるが閲覧にはオンライン申請が必要。

【台湾総督府檔案】

<http://sotokufu.sinica.edu.tw/>

中央研究院台湾史研究所と国史館台湾文献館によるデジタルアーカイブ。「台湾総督府公文類纂」（日本統治時代）、「臨時台湾土地調査局公文類纂」（1898～1905）など 10000 余冊を検索できる。原文画像は目録ページのみ閲覧ができる。（本文の閲覧には事前登録が必要）

【台湾総督府府官報資料庫】

<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>

国史館台湾文献館と政治大学図書館によるデータベース。日本統治時代に発行された 10,000 余期の府官報を収録。検索結果から官報画像の閲覧・印刷が可能。（利用には申請が必要）

【台湾総督府職員録系統】

<http://who.ith.sinica.edu.tw/mpView.action>

中央研究院台湾史研究所によるデータベース。人名・官職名などでの検索と、該当する職員録（1896 年～1944 年、計 51 冊）の原文を画像で閲覧ができる。

【新史学雑誌】

<http://saturn.ihp.sinica.edu.tw/~huangkc/nhist/index.html>

台湾で発行する歴史研究誌『新史学』のウェブサイト。各号掲載論文の摘要の閲覧と記事検索ができる。一部の著作は全文を掲載。

【政治大学・選挙研究中心】

<http://esc.nccu.edu.tw/>

「資料庫」で台湾での選挙結果やアイデンティティの変化などの調査結果データを閲覧できる。

【中共政治菁英資料庫】

<http://cped.nccu.edu.tw/>

国立政治大学中国大陸研究センターがする中国政府・共産党のエリートとその人事異動についてのデータベース。1966年以降の副部長クラス以上の党政軍幹部約4,000人の個人文書を収録する。

【中国国民党文化伝播委員会党史館・館蔵檔案目録検索系統】

<http://archives.kmt.org.tw/gs32/kmt/index.htm>

国民党党史館所蔵史料の検索システム。個人檔案や国民党関連檔案のほか、1949年以前の新聞や刊行物4,000種類を検索できる。

【中華民国政府官職資料庫】

<http://gpost.ssic.nccu.edu.tw/>

政治大学社会科学資料センターによる1911年から現在にいたる中華民国政府の官職のデータベース（各時期の政府公報・総統府公報にもとづく）。部署・人名・時期から職歴と在任者を検索する。検索結果から各公報の原文画像の表示も可能。

【中央研究院漢籍電子文献・近代史全文資料庫】

<http://dbj.sinica.edu.tw:8080/handy/>

中央研究院近代史研究所によるデータベース。（事前の申請が必要）

【中央研究院近代史研究所檔案館】

<http://archives.sinica.edu.tw/>

所蔵檔案は「外交檔案（清末～北洋政府時期）」「經濟檔案（1949年以前の大陸時期と戦後台湾時期）」「典藏名人」「館藏地圖」からなる。申請の上で、ネット上で一部の外交檔案などを閲覧することができる。

【中央研究院台湾史研究所檔案館】

<http://archives.ith.sinica.edu.tw/index.php>

「台湾史檔案資源系統」「台湾研究古籍資料庫」「台湾総督府職員録系統」「台湾総督府公文類纂查詢系統」「台湾日記知識庫」「台湾文献業刊資料庫」の六つのデータベースをもつ。「台湾日記知識庫」では、同館が出版した10人の日記を公開する（閲覧には事前登録が必要）。「台湾文献業刊資料庫」（は、1957～1972年に出版された『台湾文献業刊』などの全文を閲覧できる。

【中正文教基金会】

<http://www.ccfed.org.tw/ccef001/index.php>

中正文教基金会党史史料の保管・宣伝・利用事業や蒋介石研究の促進のために国民党中央党史委員会が設立。「研究平台」では、『總統蔣公大事長編初稿』『總統蔣公思想言論總集』とともに、「民国十五年前之蔣介石」「蔣夫人宋美齡女士言論選集」「蔣中正總統五記」が全文公開されている。

【政府公報資訊網】

<http://gaz.ncl.edu.tw/>

国家図書館によるの政府公報データベース。中華民国成立以来現在に至るまでの公報類、例えば『政府公報』（1912～1928）、『国民政府公報』（1925～1948）、『總統府公報』（1948年～）をはじめ、行政・立法・司法・考試・監察院の公報や地方政府の公報を公開、検索もできる。

香港

【二十一世紀双月刊】

<http://www.cuhk.edu.hk/ics/21c/zh/issues/>

香港・中文大学中国文化研究所が発行する雑誌『二十一世紀』のウェブサイト。バックナンバーのほか、「ネット版」として毎月数編の論文をアップする

【香港大学図書館・Digital Initiatives】

<http://www.lib.hku.hk/database/>

「西洋人の目からみた中国 (China Through Western Eyes)」では、16世紀から1911年までの期間において、西洋人が中国での見聞について書いた文書資料を公開する。同図書館がデジタル化した資料は17,3000をふくむ。また「香港基本法草擬過程資料庫 (Basic Law Drafting History Online)」「Hong Kong Government Reports Online (1842-1941)」「Hong Kong Journals Online」は、キーワード検索や閲覧が可能である。

【香港中文期刊論文索引】

<http://hkinchippub.lib.cuhk.edu.hk>

香港中文大学図書館が作成した論文データベース。香港で出版された中国語雑誌300種余りのなかから作成されている。主要な収録対象は1980年代以降だが、一部重要な雑誌は創刊号以降全てデータベース化されているという。

* * *

【Basic Law Drafting History Online】

<http://sunzi1.lib.hku.hk/bldho/>

「香港特別行政区基本法」の編纂過程に関する関連資料のデータベース。1985～1997年の香港基本法の編纂に関する政府の公文、各部門の資料、会議記録、草案などの文書をオンラインで閲覧できる。

【The Historical Laws of Hong Kong Online】

<http://oelawhk.lib.hku.hk/exhibits/show/oelawhk/home>

香港における法律の改訂経過に関するデータベース。このデータベースは1890年、1901年、1912年、1923年、1937年、1950年、1964年の7段階に分けて構成する。

【Hong Kong Government Reports Online】

<http://sunzi1.lib.hku.hk/hkgro/index.jsp>

1842～1941年の香港政府官報のデータベース。政府会議文書、行政報告、会議議事録、政府官報からなり、全文検索ができる。

【Hong Kong Journals Online (HKJO)】

<http://sunzi1.lib.hku.hk/hkjo/>

香港大学(The University of Hong Kong)が運営する学術論文データベース。法律、医学、教育を中心に、1872年以降に香港で刊行された論文の全文を閲覧できる。検索は英語で行うが、収録論文は英語と中国語がある。

【The Hong Kong University Theses Collection】

<http://sunzi1.lib.hku.hk/hkuto/index.jsp>

1941年から現在までの香港大学の学位論文の全文データベース。芸術、人文、教育、社会、医学および自然科学の各分野にわたる。言語は英語と中国語が。

【PTC Video Archives, HKUST】

<http://home.ust.hk/~avwork/MyDir/Archive/index.html>

香港科技大学（Hong Kong University of Science and Technology）による。文化研究センターが行った講座の一部をビデオ・オンデマンド方式で再生する。沈志華（華東師範大学教授）氏らの『重読中華人民共和国史（Re-reading of the history of P.R.C）』を視聴できる。

【The Universities Service Centre】

<http://www.usc.cuhk.edu.hk/Eng/Default.aspx>

<http://www.usc.cuhk.edu.hk/Chs/Default.aspx>

香港中文大学中国研究センターは香港で大陸中国を研究するために欧米の研究者たちを中心に設立された。人民共和国の新聞・雑誌を多数所蔵する。「論文データベース」のほか、「データバンク」では 1980 年代以降の都市住民調査や企業調査データを所蔵している。（使用には申請が必要）

その他

【叻報】

<http://www.lib.nus.edu.sg/lebao/index.htm>

シンガポール大学による。シンガポール発行の中国語新聞『叻報』のデジタルライブラリ（シンガポール大学による）。1887年8月～1932年3月の各号をPDFで閲覧できる。

* * *

【The China Quarterly : Cambridge Core】

<https://www.cambridge.org/core/journals/china-quarterly>

中国・台湾研究の総合学術誌『The China Quarterly』（ロンドン大学東洋アフリカ研究学院編集，ケンブリッジ大学出版局出版）のウェブサイト。バックナンバーの全文閲覧と検索ができる。

【China Vitae（中国名人録）】

<http://chinavitae.com/>

【Chinese Foreign Policy Database】

<http://digitalarchive.wilsoncenter.org/theme/chinese-foreign-policy-database>

Wilson Center が運営するデータベース。1945年以降の中国の政治・外交文書の英語や中国語で閲覧できる。中米，日中関係の外交文書や会談録をふくむ。これ以外にも冷戦史に関するコレクションが多い。

【Council on East Asian Libraries】

<http://www.eastasianlib.org/>

AAS (Association for Asia Studies) によってつくられた、アメリカのアジア関係図書館のサイト。中国研究の E リソースガイド (http://www.eastasia.nlib.org/ccm/CS_index.shtml) やアジアインターネットリソースポータル (<http://www.eastasianlib.org/guidestores.htm>) は有用。

【Harvard University Library, Visual Information Access】

http://via.lib.harvard.edu/via/deliver/advancedsearch?_collection=via

ハーバード大学図書館のデジタルイメージ統合検索システム。同図書館所蔵の Hedda Hammer Morrison コレクションなどがアップされている。たとえば H.H.Morrison コレクションは、1933 年から 1946 年まで中国にいたモリソンが撮影した 5,000 枚以上の写真から構成されているもので、VIA の検索システムから見ることができる (<http://hcl.harvard.edu/libraries/harvard-yenching/collections/morrison/>)。また Pickens, Jr. コレクションは、1930 年代、中国西北部のムスリム居住地域に宣教に赴いた Pickens 夫妻の撮影した写真や収集した資料から構成されたコレクションである (<http://hcl.harvard.edu/libraries/harvard-yenching/collections/pickens/index.cfm>)。

【Harvard Yenching Library】

<http://hcl.harvard.edu/libraries/harvard-yenching/>

ハーバード大学イェンチン図書館。Hedda Hammer Morrison コレクションと Pickens, Jr. コレクションのほか、中国の地方誌や明清古籍や国共両党研究に関わる史料などを所蔵している。

【Marxist Internet Archive】

<http://marxists.anu.edu.au/chinese/index.html>

毛沢東、劉少奇、周恩来などの一部文章を収録しているほか、陳独秀、彭述之、王凡西など「中国トロツキスト派」の人々の選集や文章も収録されて

いるのが特徴。

【Million Book Project Universal Digital Library】

<http://www.ulib.org>

2001年に計画が開始され、2007年秋に公開された、米、中、印、エジプトなどによる国際電子図書館プロジェクト。現在の蔵書数は140万冊であるが、そのうち中国語図書は97万冊を数える。おもに北京大学、清華大学、復旦大学、南京大学、浙江大学図書館に所蔵されている中国の伝統文化や文学、歴史に関する図書が提供される予定である。

【Modern china studies（当代中国研究）】

<http://www.modernchinastudies.org/>

アメリカの国際中国研究誌『当代中国研究』は1990年創刊。バックナンバーの全文閲覧と検索ができる。

【UCLA Center for Chinese Studies（中国研究中心）】

<http://www.international.ucla.edu/ccs/home>

カリフォルニア大学ロサンゼルス校中国研究センター。最新の研究動向のほか、「Podcasts」(<http://www.international.ucla.edu/ccs/podcast>)では、セミナーを視聴することができる。

【UCSD Modern Chinese History】

<http://ucsdmodernchinesehistory.wordpress.com/>

カリフォルニア大学サンディエゴ校中国近現代史専攻。英語による書評とともに、文献目録・アーカイブ案内が充実している。

【Virtual Shanghai】

<http://www.virtualshanghai.net/>

フランスのクリスチャン・アンリオ教授らが中心となって運営する。1840

年から現在までの上海に関する文字資料・画像・地図などを網羅する。

【Yale University Library Divinity Library : The Nanking Massacre Project】

<http://web.library.yale.edu/divinity/nanking>

イエール大学神学大学院図書館「The Nanking Massacre Project」のサイト。南京大虐殺を目撃したアメリカの宣教師らによるドキュメントと写真のデジタルアーカイブ。「photos&Film」(<http://web.library.yale.edu/divinity/nanking/photographs>)では、日本軍が南京に侵攻した際に撮影されたフィルム2リールの抜粋のほか1937年～1938年の南京の様子を写った写真が公開されている。「Documents」(<http://web.library.yale.edu/divinity/nanking/documents>)でも数多くの関係史料が閲覧できる。

編集委員会

青野繁治（言語文化研究科），片山剛（文学研究科），許衛東（経済学研究科），思沁夫（グローバルイニシアティブ・センター），田口宏二郎（文学研究科），竹内俊隆（国際公共政策研究科），高田篤（法学研究科），高橋慶吉（法学研究科），瀧口剛（法学研究科），田中仁（法学研究科），堤一昭（文学研究科），豊田岐聡（理学研究科），宮原暁（グローバルイニシアティブ・センター），三好恵真子（人間科学研究科），山田康博（国際公共政策研究科），林初梅（言語文化研究科）

20 世紀中国政治史文献案内

2017 年 3 月 30 日発行

編者 NIHU 東洋文庫拠点・政治史資料研究班

OUFC ブックレット 第 11 巻

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/~c-forum/booklet.htm>

ISSN 2187-6487（オンライン）

大阪大学中国文化フォーラム事務局（c-forum@law.osaka-u.ac.jp）

560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学法学研究科内